

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 12 月 11 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (12/11 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約2.5 m ³ /h	24.6	106.0 kPa abs	A系: 0.24 vol%
		給水系:約2.2 m ³ /h			B系: 0.27 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.2 m ³ /h	37.0	4.97 kPa g	A系: 0.07 vol%
		給水系:約1.9 m ³ /h			B系: 0.07 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.1 m ³ /h	38.4	0.27 kPa g	A系: 0.21 vol%
		給水系:約1.9 m ³ /h			B系: 0.19 vol%

*1 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】～【3号機】

・12/10 1～3号機原子炉注水について、12/10 から 12/17 の間に予定されている高台原子炉注水ポンプ上屋(うわや)新設工事のため、12/10 11:14 から 14:05 の間で、常用高台炉注水ポンプからタービン建屋内炉注水ポンプに切り替えを実施。これに伴い、1号機の原子炉への目標注水量(総流量 4.5m³/h)については、タービン建屋内炉注水ポンプの流量下限値(4.5m³/h)と同じであり注水流量の調整が困難となるため、1号機の原子炉への目標注水量が 5.0m³/h(総流量)になるよう、同日 14:05、1号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約 2.4 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 2.5 m³/h に変更。あわせて、2号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.1 m³/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.0 m³/h で継続、3号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約 1.7m³/h から約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.1 m³/h から約 4.0 m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (12/11 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.5
2号機	循環冷却システム	運転中	12.6
3号機	循環冷却システム	運転中	10.9
4号機	循環冷却システム	運転中	22

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	12/8 13:50 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	12/7 17:00 ~ 移送実施中

・港湾内の物揚場に保留しているメガフロートについて、今後、港湾内での工事や資機材搬入のために輸送船等を着岸させる必要があることから、港湾内北側に移設する予定。移設にあたり、メガフロートには、5・6号機タービン建屋の溜まり水を貯留しており、低濃度の放射性物質が含まれていることから、海への放射性物質漏えいリスク低減のため 11/22 10:10 より 11:59 まで、メガフロートから5・6号機周辺仮設タンク等への溜まり水の移送を実施。なお、移送については、概ね1ヶ月程度を予定。

12/11 11:08 頃 3号機タービン建屋1階西側の通路において、協力企業作業員が水溜まりを発見。新たに敷設したポリエチレン管のリークチェックのために使用していたろ過水ラインの弁を閉めており、同日 11:30 頃、漏えいが停止したことを確認。漏えい範囲は同建屋1階当該通路全域(約 5m×約 90m×(深さ)約 10mm～約 30mm 程度)で、漏えい量は現時点で約 13m³と推定。漏えい水は同建屋1階当該通路から同建屋1階の給水加熱器室に流れ、給水加熱器室のファンネル(同建屋地下へ繋がる配管)に流入しており、建屋外への流出はない。

漏えいした水の放射能濃度の分析結果は、セシウム 134: $4.2 \times 10^1 \text{ Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $7.4 \times 10^1 \text{ Bq/cm}^3$ であり、同建屋地下滞留水の放射能濃度 ($10^3 \sim 10^4 \text{ Bq/cm}^3$) より低いことを確認。漏えい水の分析結果および同建屋内原子炉注水設備に漏えい等の異常が無いことを確認していることから、漏えい水は消火栓に使用しているろ過水と推定。大物搬入口付近の消火栓からは、滞留水移送配管の耐圧試験用の水を供給するために耐圧ホースを接続しており、そのホースが当該通路を通過しているため、漏えい箇所は当該ホース部分と推定。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (12/11 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H24/12/10 10:55 淡水化装置(逆浸透膜式)3のジャバラハウス内において、パトロール中の協力企業作業員が、水が漏えいしていることを発見。同日 10:55 当該淡水化装置3を停止し、漏えいが停止したことを確認。漏えいした範囲は約4m×約8m×約3mmで堰内に留まっており、ジャバラハウス外への流出はない。漏えいした水の放射能濃度の分析結果は、セシウム 134: $3.9 \times 10^0 \text{ Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $7.1 \times 10^0 \text{ Bq/cm}^3$ 、マンガン 54 : $9.8 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$ である。漏えいの原因について調査した結果、同装置カセットドレン弁が接触等で微開になったことにより、ヘッダー繋ぎ込み部が抜けたものと推定。そのため、12/11 淡水化装置(逆浸透膜式)3に設置されている類似弁について閉固定処置をすると共に注意喚起表示の設置を行い、同日 13:32 同装置を起動。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上